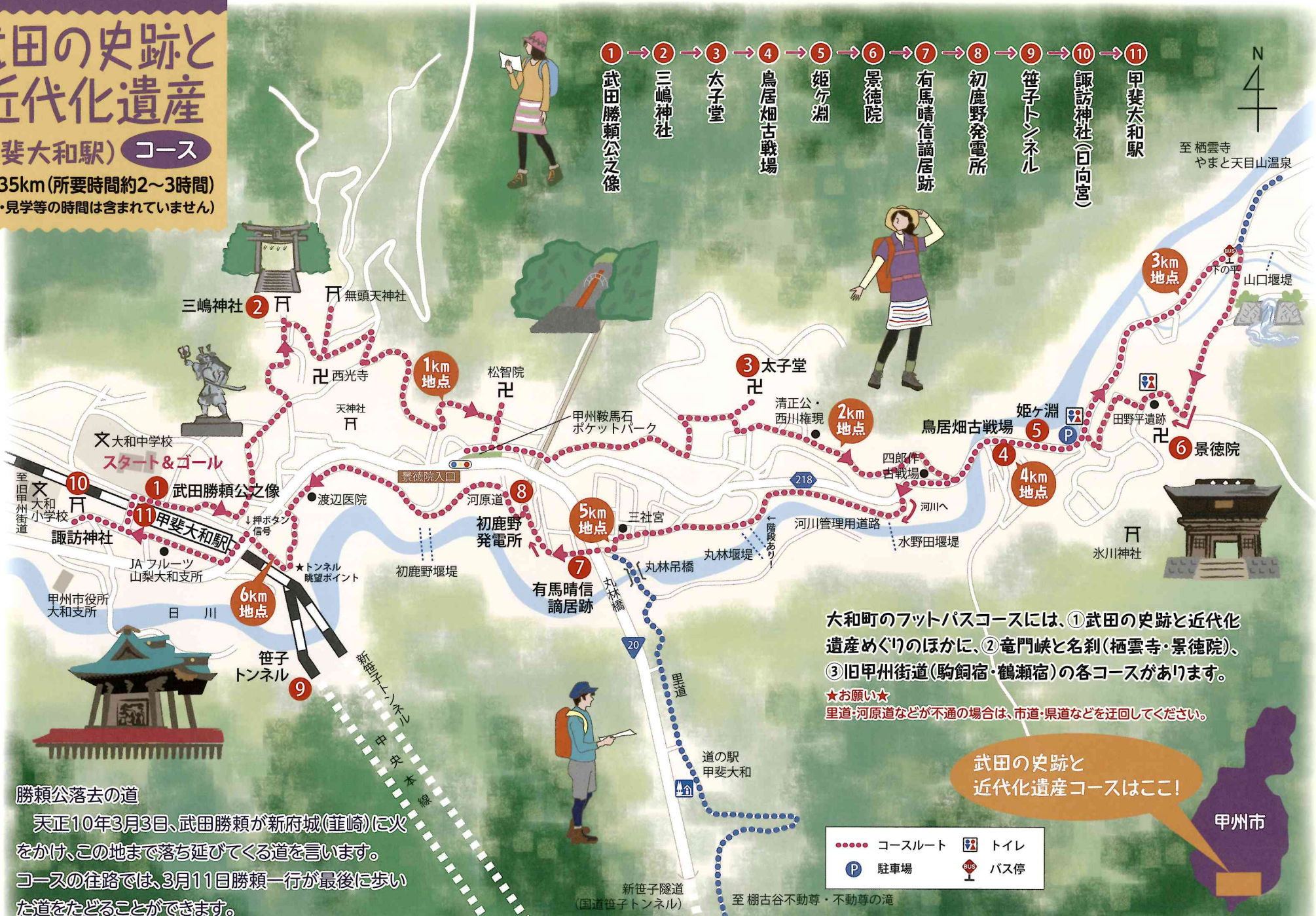


# 甲州市フットパス

## 武田の史跡と近代化遺産

(甲斐大和駅) コース

約6.35km(所要時間約2~3時間)  
(休憩・見学等の時間は含まれていません)



武田の史跡と近代化遺産コースはここ!

大和町のフットパスコースには、①武田の史跡と近代化遺産めぐりのほかに、②竜門峡と名刹(栖雲寺・景德院)、③旧甲州街道(駒飼宿・鶴瀬宿)の各コースがあります。

★お願い★  
里道・河原道などが不通の場合は、市道・県道などを迂回してください。

勝頼公落去の道  
天正10年3月3日、武田勝頼が新府城(笹崎)に火をかけ、この地まで落ち延びてくる道を言います。コースの往路では、3月11日勝頼一行が最後に歩いた道をたどることができます。

!! フットパスの注意点 !! ①畑や宅地内に無断での立ち入りはご遠慮ください。また、沿道の樹木や草花を大切にしましょう。②交通ルールを守り、ゴミ類の持ち帰りをお願いします。

発行:ある〜くこうしゅう推進協議会



## 1 武田勝頼公之像



戦国大名武田家は第20代勝頼がこの地で滅んだため、大和町は「武田家終焉の地」また「武田家の聖地」として知られています。武田勝頼公之像は、平成14年(2002)大和村制60周年記念事業として建立されました。

## 2 三嶋神社



古部地区の産土神で大山祇命を祀り、元禄16年(1703)伊豆の一宮三嶋神社より勧請されたと言われています。現本殿は、文政3年(1820)、棟梁下山村土橋文蔵茂祇によって再建。本殿内の懸仏(元禄期の作)は県内ではきわめて貴重です。

## 3 太子堂



本尊は20cmほどの聖徳太子像。往時は境内が広く堂も大きく、田舎歌舞伎が演じられたこともあります。明治期までは数名の僧侶が堂に籠り修行をして

いました。祭りは3月21日、22日、23日と3日間にわたり行われます。かつては多くの屋台が出てにぎわいました。

## 4 鳥居畑古戦場



天正10年(1582)3月11日、武田勝頼を追撃する織田・徳川4,000人の軍勢が駒飼口から押し寄せるなか、武田勢は秋山紀伊守・阿部加賀守ら100人に足りない少数でこれを迎え撃ったという激戦地です。

## 5 姫ヶ淵



武田勝頼が最期を迎えたとき、北条夫人の侍女16人は日川の淵に身を投じて殉死したと伝承されています。

## 6 景德院



徳川家康が、武田勝頼主従の菩提を弔うために創建した寺です。開山は武田家臣小宮山内膳の弟・拈橋伝因和尚。山門は景德院唯一の江戸期の建築物で県

指定文化財です。4月に行われる勝頼公まつりでは、勝頼公軍団の出陣絵巻が繰り広げられます。

## 7 有馬晴信謫居跡



肥前有馬の日野江城主であった有馬晴信はキリシタン大名として知られていましたが、岡本大八事件に連座して、慶長17年(1812)甲斐国初鹿野の地に幽閉され謫居の身となりました。ひと月ほどのち切腹を命じられましたが、キリスト教では自殺を禁じられていたため、5月6日家臣の手で斬首されました。

## 8 初鹿野発電所



大正7年(1918)に運用開始、富士川水系の現役発電所としては最古参です。取水口は日川上流の竜門峡にあり、また、構内には柏尾発電所取水口があります。柏尾発電所の運用開始は大正12年です。

## 9 笹子トンネル



笹子トンネル(写真右)は、明治36年(1903)供用開始。全長は4,656.2mで、当時は日本最長のトンネルでした。現在は下り専用です。トンネル入口の扁額には、甲斐大和駅側は山縣有朋の書で「代天工」と書かれており、笹子駅側は伊藤博文の書で「因地利」と書かれています。写真左の新笹子トンネルは、昭和40年(1965)供用開始で上り専用です。

## 10 諏訪神社(日向宮)



鶴瀬、宮本、水野田、丸林、4地区の産土神で、建御名方命を祀っています。現本殿は寛政5年(1793)下山大工土橋文蔵茂祇によって再建されました。あらゆる細部に掘り出された彫刻意匠は思わず息をのむ素晴らしさです。

こぼれ話



## 甲州鞍馬石ポケットパーク

国道・景德院入口のポケットパークには甲州鞍馬石が配されています。徳波沢から産出される甲州鞍馬石は、庭石などに加工されて地場産業として発展してきました。大和町では各区の区名碑、橋の親柱などに使われています。

## 11 甲斐大和駅



甲斐大和駅は、明治36年(1903)国鉄中央本線・初鹿野(はじかの)駅として開業した古い駅です。平成5年(1993)甲斐大和駅に改称。4月中旬、ソメイヨシノがホームを両脇から見おろすように満開になります。



## 日川上流堰堤群

明治40年の大水害から、政府は富士川砂防計画を立て、日川水制群と勝沼堰堤等を建設しました。これら砂防構造物の効果を維持するため、大正11年(1922)から昭和6年(1931)にかけて、日川上流に堰堤12基と床固4基を築きました。コースでは山口堰堤(昭和2年竣工)、水野田堰堤(大正15年)丸林堰堤(昭和2年)初鹿野堰堤(昭和4年)が見られます。

## 「初鹿野」地名の由来

古部地区の無頭天神社には、「昔、日本武尊が東征のおり、頭に十二の枝を付けた大鹿と出会い、この地で射とめて剣で頭を打ち落とした所」との伝承があります。